

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 4月28日

【評価実施概要】

事業所番号	2973600147
法人名	株式会社シルバーケアコンサルタント
事業所名	グループホームさくらの里
所在地	奈良県吉野郡大淀町今木880 (電話) 0745 - 67 - 9110
評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内
訪問調査日	平成 21 年 4 月 21 日

【情報提供票より】(21年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 1 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	5 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 4.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	平屋建て

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	41,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	1 名		
年齢	平均 81 歳	最低	74 歳	最高	87 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	むらかみクリニック・大淀町立大淀病院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当ホームは、周辺に田畑が広がり小鳥のさえずりが聞こえる自然豊かな環境の中に新設・開所されています。玄関周辺には、季節の花や様々な樹木の植栽がなされ訪問者を暖かく迎えてくれます。ホーム内は、ゆっくり寛げる明るい生活空間があり、入居者は特技や能力を生かしながら、本人のリズムで穏やかに生活されています。職員も生活支援の理念「ゆっくり・ゆったり」を基に優しい支援に努められています。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>地域との関わりを大切にされ、その交流に広がりが見られます。また、職員の育成や終末期への考え方に対する職員への周知・浸透がはかれています。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価する意義・目的は正しく理解され、全ての職員の参画の下に実施されサービス上の課題や問題点の把握と改善に取り組む機会とされています。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議の設置に向けて準備会を開き構成メンバーの選考過程にあります。会議の設置の趣旨・目的を理解されていますので早急に設置される事が望まれます。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>苦情・相談担当者が決められており、家族の訪問時等に積極的に話し掛け、不安に感じられている事や意見・要望等を聴取し、その内容を記録すると共に職員で検討し運営に反映させる取り組みがなされています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>立地の環境から日常的な関わりに希薄感がありますが、隣接農家の方々との交流があり、また、地域の各種行事への参加にも広がりが見られます。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の意思及び人格の尊重を基本に、家庭的な環境と地域との結びつきを重視した運営理念が作られています。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り時等で理念の確認の実行と見易い場所への優しい表現による理念の掲出により、実践に生かす取り組みがなされています。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	立地環境から地域住民との日常的な交流に希薄感がありますが、自治会への加入や野菜作り・干し柿作り等隣接農家の方々との交流に広がりがみられます。また、地域の行事(秋祭り・蛸狩り等)への参加を意欲的に検討されています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義・目的を正しく認識され、外部評価の結果は真摯に受け止め職員に周知され質の確保・向上に活かす取り組みと共に、自己評価に際しては、全職員の参画の下にサービス上の課題や問題点の把握と改善に取り組む機会と捉え実施されています。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の設置目的や意義について理解され、準備会議等が開かれていますが、設置するまでには至っていません。		運営推進会議の設置は、基準省令で明確に義務付けられていますので、早急に設置される事が望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上の課題や相談あるいは情報交換等に行政窓口を訪問され、質の向上を目指す取り組みがなされています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に、健康状態や暮らしの様子を報告されています。また、金銭の出納状況も毎月報告されています。なお、健康状態に変化が見られる時にはその都度報告・相談され、適切な対応がなされています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情担当者が決められており、家族の訪問時等に積極的に話し掛け、不安に感じられている事や意見・要望を聴取され、その内容を記録すると共に職員で検討し運営に反映させる取り組みがなされています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	安定した生活を維持する上で馴染みの関係は極めて大きな要素であるとの思いから、職員の退職時には馴染みのある他の職員がフォローする等により入居者の不安や混乱防止に配慮されています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	サービスの質は職員の資質と一体にあることから、外部研修の機会の確保を図り職員の育成に努められています。なお、受講者はレポート等を作成し職員に伝達することとされています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、介護サービス事業者等との交流はありますが、職員が交流する迄には至っていません。		同業者との交流は、サービスの質の向上と職員育成に大きな効果をもたらすと思料いたしますので、こうした取り組みを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居は、本人の納得が大切なことから、ホームの見学時にレクの時間等を活用し入居者と時間を共有する等で暮らしの状況や雰囲気を実感してもらい安心した移行に努められています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	五の心(感謝・奉仕・素直・謙虚・反省)を双方が心がけ、共に支えあう関係の維持に努められています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活歴の把握や日々の暮らしの中から希望や思いを掌握・記録する取り組みがなされています。困難な場合は、面会時家族に確認し、その情報を基に本人本位に検討されています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、本人のより良い生活の維持・確保にあることから、家族や関係者が相談し、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成されています。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	身体・生活の両面の計画に対して毎月評価され、必要に応じて見直しを実施されています。なお、状態に変化が見られる時には家族等関係者が相談され随時の見直しも実施されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況を勘案しながら、通院や買い物等に柔軟な対応が図られています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力の下に本人が希望する医院で受診されています。なお、往診を希望されたり、特に希望されない入居者には、協力医療機関で受診されています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期へは積極的な姿勢があり、明確な方針が確立されています。看取りの実績もあり、一人ひとりの状況に応じてその都度関係者(家族・医師等)で十分相談する事とされています。また、入居時にも終末期へのあり方について説明もなされています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の生活歴を考慮し、また、人格の尊重を念頭に常に言動等には配慮した支援に努められています。なお、個人情報に係る記録類は決められた場所で管理・保管されています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な生活の流れの設定がありますが、一人ひとりの体調等を考慮し、本人の生活リズムを優先した支援に努められています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は生活の中の楽しみの一つである事から、個々の能力に合わせて食事の準備や後片付け等に協働され、職員も一緒に同じものを摂りながら楽しい雰囲気作りに取り組まれています。また、入居者の希望も献立に取り入れられています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や入浴時間帯の設定がなされていますが、本人の意向を尊重した支援に努められています。		なお、夜間入浴への支援が今後の課題と認識されていますので、実現を期待します。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	暮らしに満足・充実感を持ってもらう事が大切との思いから、特技等を生かした役割や場面作りに工夫されています。なお、近くで開かれる朝市に出掛ける等より気分転換・気晴らし支援の取り組みもあります。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周辺の散歩を日常的に取り入れられているほか、ドライブや外食等による外出機会の確保が図られています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、施錠による弊害を理解されており、入居者が外出しそうな様子をキャッチしたらお茶を勧める等、その人ができることを提供し気分を紛らわすように支援することで、日中玄関は常に開錠されています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災に備え、避難訓練や消火訓練を定期的実施されます。また、緊急通報装置・火災報知機の整備や緊急連絡体制があり、安全体制が確保されています。		火災発生時は、入居者を迅速・安全に屋外に誘導する事が求められます。とりわけ夜間の手薄になる場合は地域住民の協力は不可欠と思料いたしますので、応援・協力体制への一層の取り組みが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分補給の状況は詳細に記録され、個々に状態に合わせた支援に努められています。なお、献立表を管理栄養士に相談され、栄養バランスへの配慮がなされています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広く明るい共用空間は清掃が行き届き清潔感があり、季節の花も生けられ穏やかに過ごせる様に努められています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが、使い慣れた家具・調度品等を持ち込まれ安心して過ごせる場所となっています。		